

會から

○保育終了の子らを送り出す三月と、新入園の子らを迎える四月と、このところ皆さんはお忙しいことでしょうか。送るころ、迎えるころ、それ／＼全く心がたがった心持が、皆さんの胸と頭とをばいにしていくことでしょうか。

○が、忙しいのは先生方で、子どもは、いたつて幸福と愉快とに、日々を楽しんでいるのです。その幸福と愉快とを満喫させてやるのが『日々の保育』です。『常の保育』です。行事の忙しさに、『日々の保育』『常の保育』がお留守になつてはなりません。

○それにしても、なんとよい春ではありませんか。忙しさに春を忘れ、春にそむいてはなりません。保育者には心のゆとりが大切なことはいつでもですが、わけても、このよき春の朝の光、夕の色、春の日光、春の風と春の雨、梢の花はもとより、ふと見つける草の花、鳥籠の囀りはもとより、たまく飛んで来た小鳥の声、それこそ、ゆとりでのみ味える春です。それも、子どもらのやわらかい、感じ易い心に、見え、聞え、触れている春のいぶきを、われらも共に味つてゆくゆとりを失つてはなりません。春閑という言葉があります、この楽しみ多き子等と共に春に

る先生方としては、春忙といつた方がい、でしょう。歌も句もまとまつた字数にならない程の春忙です。子らと共に春に浴する一刻々々が『保育詩』ですからね。

○と同時に春の詩歌句集の一冊位、杜甫詩集でも金槐和歌集でも蕪村句集でも、春の幼稚園、春の保育所にあつてほしいですね。

○この号には、守屋氏の『幼稚園P・T・A協会』西桜幼稚園の『都市幼稚園の園外保育』堀合氏の『保育の感想』と、実際保育に即した文章が満載されています。いずれも御精読を希望します。

『幼児の教育』編集

編集主任 倉橋惣三
協力委員 牛島義友
及川ふみ
齋藤文雄
多田鐵雄
波多野完治
山下俊郎

編集委員 西山浪太郎

日本幼稚園協會

幼児の教育 第3巻 第四号

定価 金参拾円

昭和二十六年四月十五日印刷
昭和二十六年四月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式会社 フレーベル館

電話九段(33) 五七・五七・三三番
振替 東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他は凡べて發売所フレイベル館宛に願います